

ショートストーリー

世界に広がるYKKグループ
-とっておきのエピソード-



第8話 挑戦 (後篇)



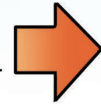
制作/ad-manga.com

YKK に立ちはだかった試練とは…

1970年代

USAでは日本とは違うビジネスモデルが既に根付いていた

日本



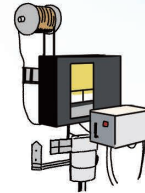
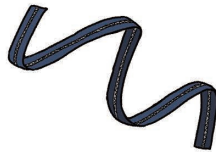
ジッパーの
「完成品」を納品



USA



パーツを納品し、同時にジーンズの
ジッパー部分を作る機械を縫製工場にリース



さらに顧客である
ジーンズメーカーの間には
長年の信頼関係があり

そこに YKK が参入するのは
並大抵のことではなかった

それでも YKK は歩みを止めることはなかった

まずはジッパーの強度・コストで
他社を超えなくてはならない
そこで立ち上がったのが開発の M である

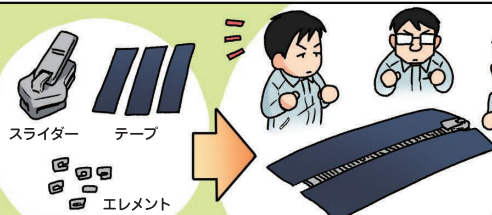
強くてジーンズの洗い加工や
仕上げ加工に対しても
品質を保証できる

日本

そんな商品を作らねば！

M (50 歳)

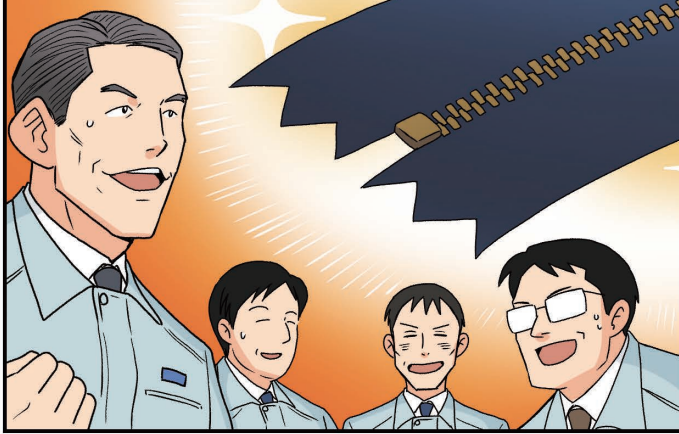
各部門の枠を取り外し
三位一体で開発に取り掛かるなど
開発の仕方も大きく変え



他社製ジッパーを
徹底的に分析

材質、加工方法、形状の選定など
試行錯誤を行うこと数百回…

ついに
品質で他社製を追い越せる



ジーンズ用ジッパーが完成した

しかし商品の良さだけでは
USA 市場に参入するには足りない…

USAにて



よし次だ…

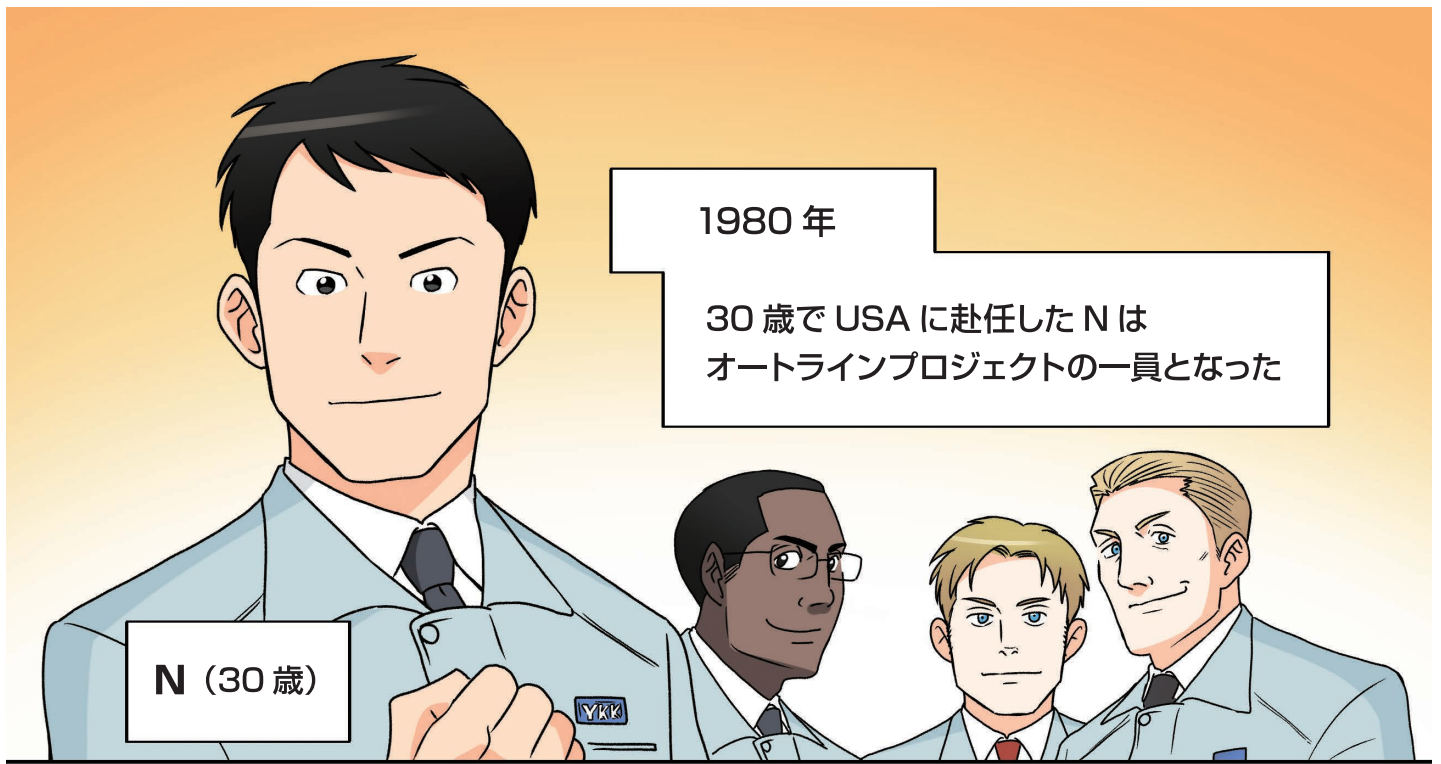
顧客の縫製に対応できる
合理的な提案が必要だった

自動化に
挑戦だ!



作業の自動化と合理化のため
ジーンズ生産のプロセスに
ファスナー縫製を組み込む

新しい機械（オートライン：全自動縫製機）の
開発に取り組んだのだ

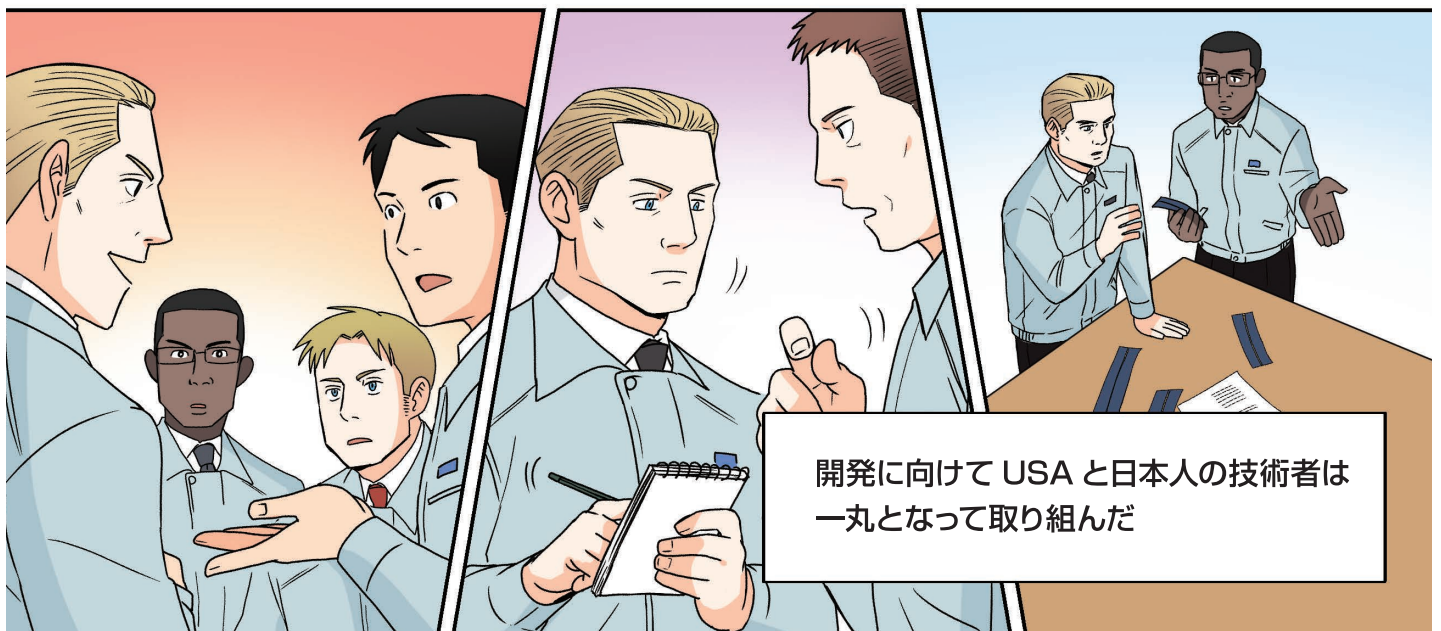
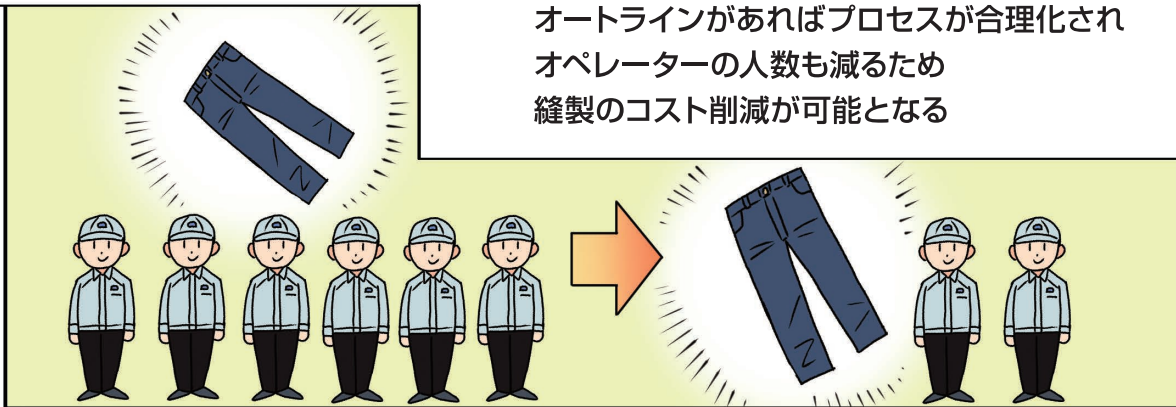


1980年

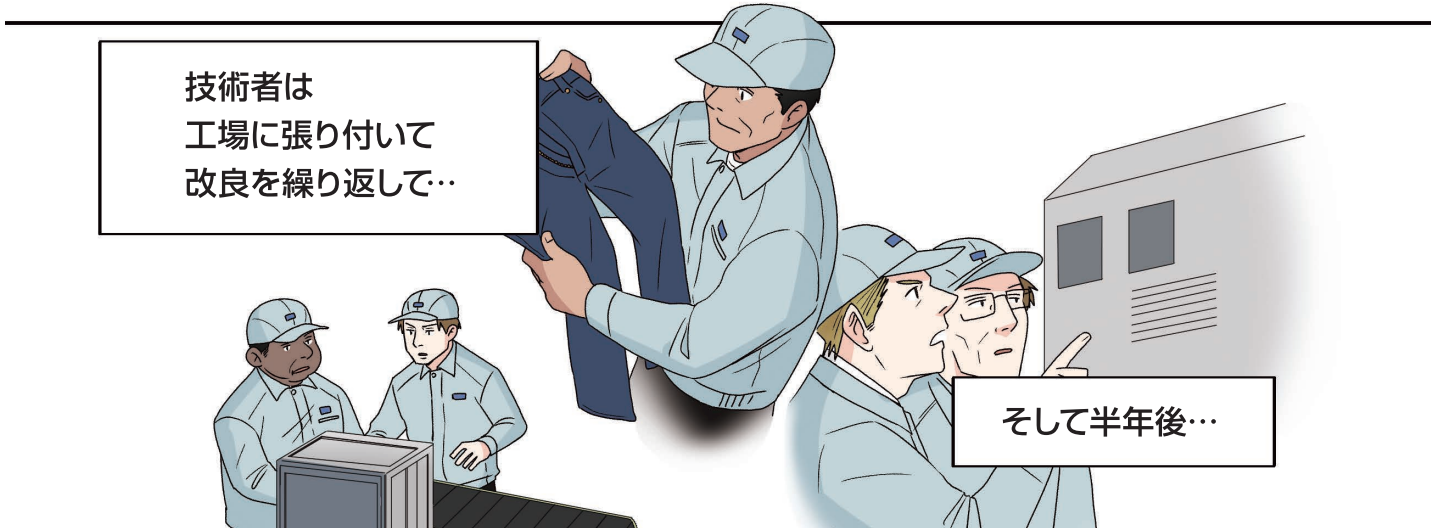
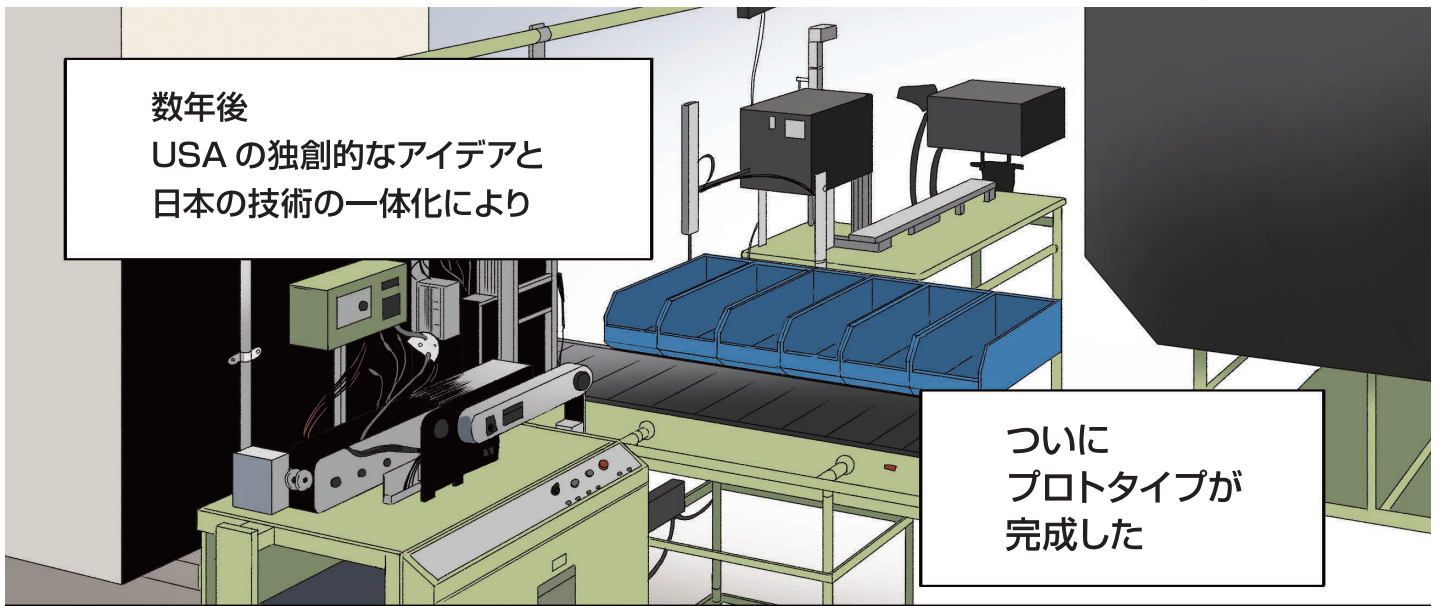
30歳でUSAに赴任したNは
オートラインプロジェクトの一員となった

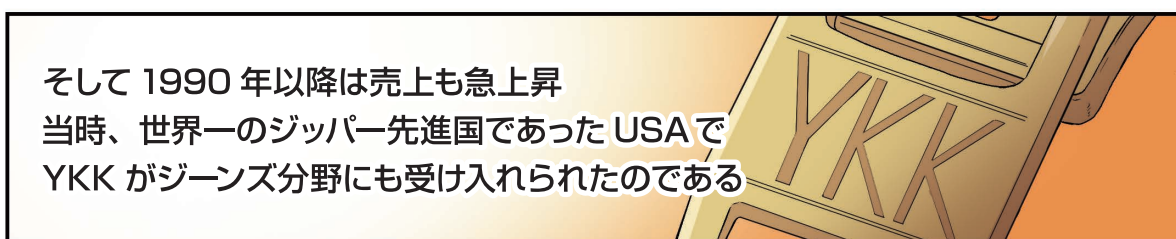
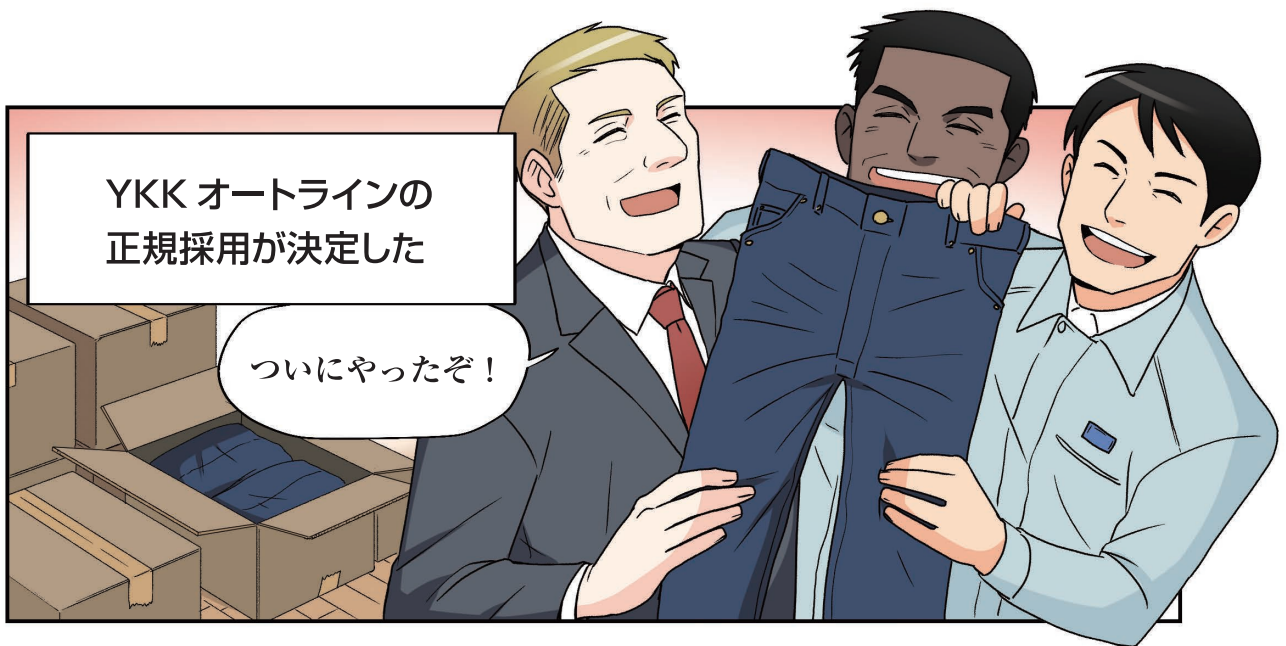
N (30歳)

これまでの機械はいわば「半自動」
ジッパーの取り付けを簡単にするためのものだった

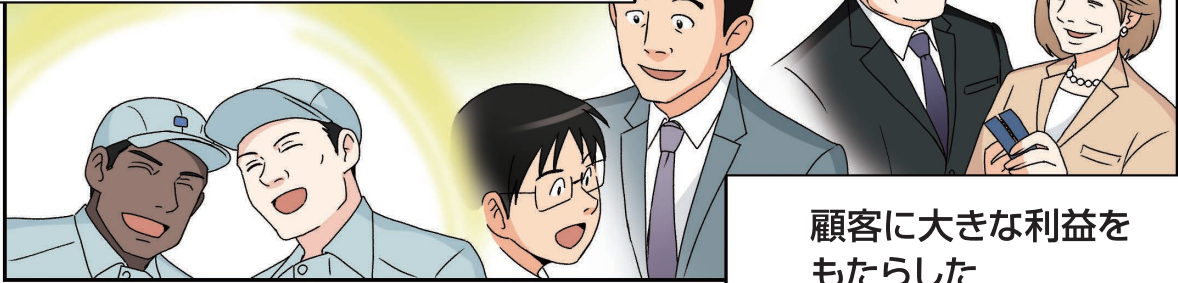


開発に向けてUSAと日本人の技術者は
一丸となって取り組んだ





その後も
商品開発やオートラインの改良
製造コストの削減など顧客の要望に丁寧に対応し



顧客に大きな利益を
もたらした

より良いものを、
より安く、
より速く

当時の想いは
現在のYKKにも受け継がれている



終わり